

Ki-1リンパ腫の1例

足利赤十字病院内科 渡辺賢治 内藤真礼夫 棚橋紀夫 奈良昌治

佐野厚生病院内科 小林広幸・国立東京第二病院内科 新保卓郎

群馬大学医学部附属病院中央検査部 小島 勝

日本内科学会雑誌 第78巻 第7号別刷

1989年7月10日

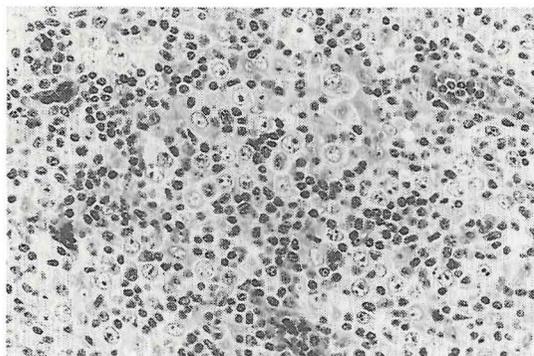


図1. リンパ節生検像。核小体の目立つ大型の異型細胞のびまん性増殖をみる。(HE染色, ×400)

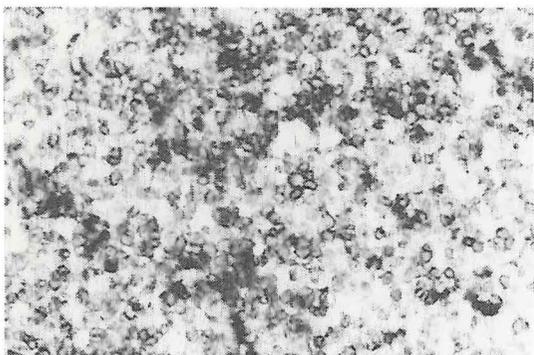


図2. リンパ節生検像。Ki-1陽性細胞を示す。(Avidin-Biotin-Peroxidase法, ×400)

考案： Ki-1抗原は、1982年Shwabら³⁾によりホジキン病より確立した細胞株L428に対して作製された抗体により同定された抗原であり、ホジキン病に特異的に陽性となると考えられていたが、1985年にSteinら¹⁾は非ホジキン病の中にKi-1抗原陽性で組織像、増殖様式および抗原発現様式に類似性を示す悪性リンパ腫群が存在することを報告し、Ki-1リンパ腫の概念を提唱した。その後、Ki-1リンパ腫の報告が重ねられつつある^{4)~7)}。Kadin⁷⁾らは、1988年に19例のKi-1リンパ腫につき検討している。それによると年齢は3才から72才までであるが若年令層に多い。病変部位はリンパ節に限局しているものが9例、皮膚病変のみものが4例、両方を有していたものが4例であり、皮膚病変を呈しやすいのが一つの特徴である。また骨髄浸潤のないことも特徴の一つに挙げられて

いる。本例では、72才と高令であり皮膚病変は存在せず、末梢のリンパ節に限局していた。他院にてホジキン病と診断されたリンパ節生検材料を再検討したところ、リンパ節の基本構造を破壊し大型異型リンパ球系細胞がびまん性に浸潤し、多核巨細胞も散見された。しかし典型的なホジキン細胞、Reed-Sternberg細胞はみられず、Ki-1抗原陽性であったため、この生検材料はKi-1陽性大細胞型リンパ腫の一部像を示すものと考えられた。Ki-1リンパ腫に対する治療法に関しては確立されていない。Kadin⁷⁾らは6例の小児例につき治療経過を報告しているが、放射線療法のみでは再発しやすく、早期に強力な化学療法が必要と述べている。本例では、患者が高令であることより減量したCHOP療法を施行した。肺炎を合併し死亡したが、今後治療法の確立のために同様の症例の臨床経験が積み重ねられていく必要がある。そのためには、免疫組織等により診断を正確にすることが重要と考えられる。

文 献

- 1) Stein H, et al: The expression of the Hodgkin's disease associated antigen Ki-1 in reactive and neoplastic lymphoid tissue: Evidence that Reed-Sternberg cells and histiocytic malignancies are derived from activated lymphoid cells. *Blood* 66: 848, 1985.
- 2) Hsu SM, et al: Use of avidin-biotin-peroxidase complex (ABC) in immunoperoxidase techniques: A comparison of ABC and unlabeled antibody (PAP) procedure. *J Histochem Cytochem* 29: 577, 1981.
- 3) Schwab U, et al: Production of a monoclonal antibody specific for Hodgkin and Sternberg-Reed cells of Hodgkin's disease and a subset of normal lymphoid cells. *Nature* 299: 65, 1982.
- 4) Agnarsson BA, et al: Ki-1 positive large cell lymphoma: A morphologic and immunologic study of 19 cases. *Amer J Surg Pathol* 12: 264, 1988.
- 5) Moubayed P, et al: T-cell lymphomas of the stomach: morphological and immunological studies characterizing two cases of T-cell lymphoma. *Virchows Arch A* 411: 523, 1987.
- 6) Sugimoto H, et al: Ki-1⁺ cutaneous lymphoma: Gene rearrangement analysis of tumor cells in tissue and short-term culture of a patient. *Arch Dermatol* 124: 405, 1988.
- 7) Kadin ME, et al: Childhood Ki-1 lymphoma presenting with skin lesions and peripheral lymphadenopathy. *Blood* 68: 1042, 1986.

Ki-1リンパ腫の1例

足利赤十字病院内科 渡辺賢治◇内藤真礼夫 棚橋紀夫 奈良昌治

佐野厚生病院内科 小林広幸・国立東京第二病院内科 新保卓郎

群馬大学医学部付属病院中央検査部 小島 勝

概要 73才の女性が頸部リンパ節腫脹が出現し、他院の生検でホジキン病と診断され当院に紹介された。入院後左単径リンパ節も腫脹したため生検したところ、Ki-1リンパ腫の所見であった。化学療法施行したが肺炎を合併し永眠した。Ki-1リンパ腫は、非ホジキンリンパ腫でKi抗原陽性のリンパ腫であり、臨床報告例も少なく報告を積み重ねる必要があると考え報告する。

〔日内会誌 78:964~965, 1989〕

緒言: Ki-1抗原はホジキン病のホジキン細胞およびReed-Sternberg細胞に陽性となるが、1985年にSteinら¹⁾が、同抗原がリンパ球の活性化とともに発現し、非ホジキンリンパ腫にもKi-1抗原陽性のものがあることを報告して以来、Ki-1リンパ腫として報告が散見される。我々はKi-1リンパ腫の1例を経験したので報告する。

症例: 73才, 女性。主訴: 両側頸部リンパ節腫脹。現病歴: 昭和63年1月初旬より右頸部の無痛性の腫脹に気づき、徐々に増大したため1月20日他院を受診した。右頸部リンパ節生検によりホジキン病と診断され、同年2月18日当院内科に紹介された。3カ月で5kgの体重減少を認めた。発熱、盗汗も認めた。

入院時身体所見: 脈拍80/分、整。血圧130/70。体温36.8℃。右顎下、両浅頸、右鎖骨上窩リンパ節を触知した。また左単径部にも孤立性のリンパ節を触知した。心肺異常を認めず。腹部は平坦、軟。肝脾腫を触知せず。下腿浮腫なし。主要検査成績: 末梢血では白血球増加を認めたが、ヘモ

グロビン、赤血球数、血小板数は正常であった。生化学検査では特に異常所見を認めなかった。骨髓穿刺では異型細胞を認めなかった。Gaシンチでは両側頸部リンパ節と左単径部のリンパ節に集積を認めたが他には取り込みを認めなかった。胸腹部CT、腹部エコーでは胸腔内、腹腔内リンパ節腫大は認めなかった。左単径部のリンパ節生検(図1)では、リンパ節の基本構造は破壊され、胞体の広い異型リンパ球のびまん性増殖が認められた。核は類円型ないし“まがたま”状を呈し、核小体は明瞭であった。Avidin-Biotin-peroxidase法²⁾を用いて検索した結果、腫瘍細胞はKi-1(図2)、CD3(Leu4)、CD4(Leu3a)、CD25(Tac)、Ia、Epithelial membrane antigen陽性で、CD20(B1)、CD22(Leu14)、免疫グロブリンが陰性であったためT細胞マーカーを有するKi-1リンパ腫と考えられた。なおCD8(Leu2a)は陰性であった。入院後経過: CHOP療法を施行し表在リンパ節は消失したが、4週間後肺炎を合併し永眠した。

〔昭和63年3月26日受稿〕

Ki-1 lymphoma histologically mimicking Hodgkin's disease

Kenji WATANABA, Mareo NAITO, Norio TANAHASHI and Masaharu NARA, The Department of Internal Medicine, Ashikaga Red Cross Hospital, Ashikaga

Hiroyuki KOBAYASHI, The Department of Internal Medicine, Sano Public Welfare Synthetic Hospital, Sano

Takuro SHIMBO, The Department of Internal Medicine, The Second Tokyo National Hospital, Tokyo

Masaru KOJIMA, The Department of Clinical Laboratory, Gunma University School of Medicine, Maebashi